# 京都丹波高原国定公園

# 年中行事企画展

山國神社例祭

道相神社例祭

からす田楽

美山かやぶきの里雪灯廊

かやぶきの里お田植え祭

田歌の祇園神楽

浄瑠璃崩し丹波音頭とその踊り

上げ松 / 松上げ

京都丹波高原国定公園ビジターセンター
Kyoto Tamba Kogen Quasi-National Park

京都府登録無形民俗文化財

# 川上神社 からす田楽

大原（おおばら）神社の摂社、樫原地域の氏神様を祀る川上神社では、五穀豊穣や山仕事の安全を祈るため「からす田楽（樫原の田楽）」が奉納されます。からす田楽は九人の役者で構成され太鼓四人、笛一人、木の板を紐で束ねた楽器「ビンザサラ」四人で行われます。ビンザサラを鳴らす内の新入りがからす役を務めます。かつては、毎年交替する世話役の家が集落の人々に鯖のなれ寿司をふるまう「鮓講（すしこう）」という風習があったそうです。

田楽の奉納は大原神社拝殿、「山の神」の祠の前、川上神社の三ヵ所で行われます。お祭りのハイライトはからす役が「カア、カア、カア」と鳴きながら三歩前に飛ぶシーン。からすが里におりてきた獣を追い払う仕草をまねしているという説があります。六〇〇年の伝統を受け継ぎ、村を守る神様のため一度も欠かすことなく行われています。そこには樫原の住人である誇りと先祖から受け継がれた田楽を次の世代につなぐという使命感が込められています。

**日　時：10月　体育の日　午後**

場　　所：南丹市美山町樫原大原谷 10

お問合せ：美山町大野振興会　0771-75-9110

取材協力：郷土史研究家　東 慧 氏

川上神社氏子　山口 恒一 氏

ビンザサラ
一説には鎌倉時代から使用されていたといいます。
写真のものには「安政」と書かれており長年使用されています。

京都丹波高原国定公園ビジターセンター
Kyoto Tamba Kogen Quasi-National Park

# 知井八幡神社 祭礼

神輿巡幸

宵宮

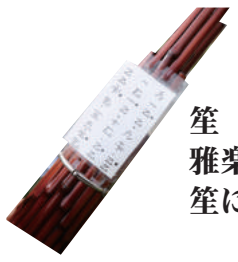
雅楽の演奏

知井八幡神社は創建一〇七一年の神社で、神社の起源は七一三年の八股角の大鹿退治の伝説にさかのぼります。伝承によると当時、都を荒らす妖怪が出没し、人々を恐怖に陥れました。天皇の命を受けた占師は、丹波の奥山に棲む八股角の大鹿の仕業とし、天皇は直ちに甲賀三郎兼家に命じて大鹿退治にあたらせました。大鹿退治は成功し、兼家は神恩に感謝し佐々里にお社を建てたのが今の知井八幡神社の起源だと言われています。現在の本殿は一七六七年に建てられたもので、本殿の神社彫刻は丹波地方を代表する神社として広く知られています。

祭礼は宵宮と例祭（神幸祭）の二日間行われ、一日目の夜の宵宮では神社の境内に提灯の明かりが一晩灯されます。神幸祭では神輿が北（かやぶきの里）、南、中の各集落を練り歩きます。地域の人々の家内安全が祈られ、一年の収穫に感謝をします。例祭では地元有志による雅楽が奉納され、神輿の前を歩く「道楽（みちがく）」で祭りを盛り上げます。

**日　時：10月上旬**

場　　所：南丹市美山町北宮ノ本 31-1
お問合せ：知井振興会　0771-77-0001
取材協力：知井八幡神社宮司　大野 守 氏



笙（しょう）
雅楽の演奏の際に使用されます。
笙についているのは楽譜。

京都府登録無形民俗文化財

# 道相神社 道相神楽

たわら振り

道相神社の歴史は紀元前一五年にさかのぼります。諸国平定のために天皇により遣わされた丹波道主命（たんばみちぬしのみこと）がこの地に建てた野々宮御所が神社の始まりとされています。

九二九年には、道相神社と名づけられました。名前の由来は当時交通の要衝であったことから「道の相寄った」場所であったことや、丹波道主命の「道主」がなまったなど諸説あります。道相神楽は天狗と獅子を先頭に「たわら振り」などが芸を披露しながら神社を目指します。神社に入ると太鼓打ちとたわら振りの奉納、獅子舞の奉納が行われます。

神楽の奉納は人手不足などから度々休止していた時期がありましたが「今復活させないと神楽の存続が危ぶまれる」という強い危機感から、二〇一七年には集落の奮起により九年ぶりに復活しました。伝統を次世代につなぐという強い思いがこもった神楽の奉納をぜひご覧ください。

道相神楽保存会設立時（1992 年）の写真

**日　時：10月上旬の日曜　午後**
**3 年に 1 度（例祭は毎年）**

場　　所：南丹市美山町宮脇ヒノ谷 43-1
お問合せ：一社）南丹市美山観光まちづくり協会　0771-75-9030
取材協力：道相神楽保存会会長　中島 典紀 氏

京都丹波高原国定公園ビジターセンター
Kyoto Tamba Kogen Quasi-National Park

# 山國神社 例祭

山國神社は古くから朝廷との結びつきが強く、平安遷都にあたり御杣料地（みそまりょうち）として定められました。その後も大嘗祭（だいじょうさい）の御殿造営の御用材を山国から調達する事が恒例となりました。九二七年の「延喜式」の中にも名前が残っており、平安時代中期には朝廷から重要視されていました。

山國神社の例祭は以前は三日かけて神幸祭、例祭、還幸祭を行っていましたが、現在例祭と還幸祭が同日に行われ二日間実施されています。

還幸祭の見どころは維新勤皇山国隊による軍楽巡行で、戊辰戦争の時に山国地域の農民が朝廷側として戦った「山国隊」がモデルになっています。この軍楽は京都府登録無形民俗文化財に登録され、時代祭にも参加していました。「昔からの衣装を再現するには時間と費用がかかりますができる範囲で継続したい」と神社の宮司さんは話します。平安時代から守り続けてきた山国の地に対する誇りと神様への感謝の気持ちがこの例祭を続ける原動力となっています。

**日　時**：10月第２日曜

**場　　所**：京都市右京区京北鳥居町宮の元１

**お問合せ**：山國神社　075-853-0440

**取材協力**：山國神社宮司　藤野 清臣 氏